

終助詞「ね」「よ」「よね」の発話連鎖効力に関する一考察 —大規模談話完成テスト調査報告—⁽¹⁾

西郷 英樹

要旨

同一場面に現れた同一発話内容に発話末詞「ね」「よ」「よね」がそれぞれ後続すると、その後どのような発話の流れが現れるのだろうか。この点を調査するため、談話完成テストを実施した。回答者は日本語母語話者 51 名、非母語話者 50 名である。今回得られたデータは上記の研究テーマのみならず、日本語教育、第二言語習得関連の研究テーマにおいても活用できるのではないかと考える。そこで、本報告の目的を、本テストの実施背景、テスト内容の紹介、テスト実施手順、またテストで得られたデータのまとめ方を紹介することとする。なお、本テストで得られたデータの入手方法は本文を参照されたい。

【キーワード】 終助詞、発話連鎖、日本語母語話者、日本語学習者、日本語教育

1. はじめに：本調査の背景

1.1 学習者は「ね」「よ」が使えない

筆者の主たる日々の仕事は短期交換留学生を対象に日本語授業を行うことである。その中で、中級レベルの学習者でも、初級レベルの文法項目である「ね」「よ」（以下、ネ、ヨ）がうまく使えないのはなぜかという疑問が発話末詞⁽²⁾研究をはじめたきっかけである。使用頻度が低い言語要素であれば、うまく使えなくてもそれほど困らないであろうが、ネ、ヨの使用頻度は非常に高い(Maynard 1993; 西郷 2015)。使用頻度が高くても、コミュニケーションに支障をそれほどきたさないのであれば、うまく使えなくてもよいだろう。しかし、ネ、ヨは全く使わないと目の前の相手が視野に入っていないかのように独白調になってしまう可能性もあり、また使い方を間違えると発話のやり取りがぎくしゃくしてしまう (cf. 大曾 1986)。また、ネ、ヨ

は単に文法の間違いという枠を超え、話し手の性格や人間性と結び付けられることも指摘されている（福島など 2008）。以上のようなことを考えると、ネ、ヨが学べるよりよい環境を学習者に提供することは大きな意味を持つと言える。

1.2 どんな目的でネ、ヨを使うのか

これまでネ、ヨの意味機能については様々な議論がなされている。筆者は、西郷（2012）で、終助詞研究の動向を 80 年代後半から 90 年代前半までと、90 年代後半に分けている。そして、前者の傾向を「話し手と聞き手の認知状態の一致・対立」、「情報の帰属」という考えを基にしたもの、後者の傾向を「話し手と発話内容との関係性」に焦点を当てたものだと述べた。しかし、これら先行研究での成果の中には日本語学習者が最も知りたいであろう「何のために会話でネ、ヨを使うのか」という問いに対する明確な答えは見いだせない（西郷 2012; 西郷 2015; Saigo 2011）⁽³⁾。新しく発売された健康食品の成分は云々だという情報と、こんなときにこの新しい健康食品を飲めば効果的だという情報があるでしょう。栄養学の研究者ではない一般消費者にとって、どちらの情報に役に立つかは一目瞭然だろう。同じように、ネ、ヨの意味機能は云々だという情報ではなく、こんなときに、ネ、ヨを使えば効果的だという情報が学習者には必要なのだと考える。これは単に表現の仕方を変えるとこのレベルではない。例えば、「ヨは聞き手が知らない情報につける」という文言を「聞き手が知らない情報だと聞き手に伝えるときにヨをつける」に変えればよいわけではない。求められているのは、自分と聞き手がいるこの状況でどんな目的を達成したいときに、ネ、ヨを使うと効果的なのかという、より方略的かつ学習者の勘どころを押さえた説明なのである（cf. 黄・井上 2005）。

1.3 談話レベルでの考察の必要性

ネ、ヨの方略的な使用に焦点をあてる場合、多くの先行研究で行われてきたような文レベルでの考察から、発話のやり取りの流れがわかる談話レベルでの考察が必要になってくる。高（2016）が述べているように、西郷（2012）や崔（2016）など、ここ数年で発話連鎖や談話の展開などに関する研究が見られるようになりつつある。これらの研究は、ネ、ヨ、ヨネがどのように談話の流れと関わっているかに焦点を当てており、これら発話末詞の方略的な側面を考察するには有効なアプローチ

と言えよう⁽⁴⁾。

詳しくは西郷（2012）等に譲るとして、ここでは発話連鎖の観点からネ、ヨを考察している筆者の主張を簡潔に紹介したい。主張の核は、ネ、ヨにはそれぞれ異なる発話連鎖効力（発話をつなげていく力）があり⁽⁵⁾、ネ、ヨを使い分けることによって、話し手は自分がその発話を用いて何を意図しているか聞き手に示しているということである⁽⁶⁾。相手とのあいだに良い雰囲気を作りたい、または提案の前の土台（前提、共有認識）を作りたいなど、何らかの目的があって、「あなたから同意がほしい」と伝えたい場合はネを用いる。例えば、日曜日の朝、妻が新聞を読んでいる夫に発する「今日天気いいネ。」などの発話である。その後続く夫の返答は「そうだね。」「いいね。」などであろう。

同意よりも話を一歩前進させたいという話し手の意図を相手に伝えたい場合は、ヨを用いる。例えば、先ほどの日曜日の状況で、妻が夫から「どこか行こうか」などの提案をすぐさま引き出したい場合は、「今日天気いいヨ。」などと話を一歩前進させる効力を持つヨを用いるだろう。この「ヨ」発話に対して、夫が「ネ」発話と同じような応答（「そうだね。」「いいね。」）をしたとしたら、妻はその応答に満足はしないだろう。ヨの効力に適切に応答しなかった夫の発話が妻をそのような気持ちにさせると考える。ヨの効力を妻自身が引き取って、「どっか行かない？」と話を発展させる場合も考えられる。

非常に簡潔にまとめたが、以上が筆者の主張である。筆者は Saigo（2011）で、自然会話データを用いて、ヨネ、そして裸文末（発話末詞なし）の機能とともに、この主張（仮説）の妥当性を検証した。しかし、全く同じ場面に現れた同じ発話内容にネ、ヨ、ヨネがそれぞれついたら、母語話者はどのような発話のやり取りをするのだろうかという素朴な疑問が残されていた。

この疑問に取り組むために、筆者はパイロット・スタディとして、西郷（2012）で母語話者6名を回答者に談話完成テスト（Discourse Completion Test、以下、DCT）を実施し、本研究テーマにおけるデータ収集方法としてその有用性を認めた。本報告で紹介する DCT はこの拡大・発展版である。

2. 本テスト結果を基に明らかにしたいこと

本テスト実施の目的は、大きく2つに分けられる。まずは、西郷(2012)を以下の

3点で発展させ、ネ、ヨ、ヨネ発話の後に日本語母語話者（以後、NS）が作り出す話の流れを調査することにある。

- (ア) 回答者を大幅に増やし、NS が作り出す流れを類型化する。
- (イ) 発話を叙述・断定文だけでなく、依頼文も含める。
- (ウ) 発話内容自体の影響を探るため、叙述・断定文、依頼文のテストをそれぞれ2つ、計4問答えてもらう。西郷（2012）では叙述・断定文1つのみであった。

次に、日本語学習者（以後、NNS）にも考察を広げることである。

- (エ) NNS にも同じ DCT を実施し、NS の回答と比較検討する。

3. DCT 作成

3.1 DCT とは

DCT は語用論（特に中間言語語用論）に関する研究分野で幅広く使われてきたデータ収集方法で、その主な目的は自然だと考える言語使用を回答者に記述してもらい、そのデータを集めることにある。DCT で得られたデータは以下の点で取り扱いに注意を要する。得られたデータは、回答者が与えられた場面で実際に言ったことではなく、そう言うであろう、もしくは言うべきだと考える回答者の内省的知識・判断である。また、筆記データからは実際の自然発話に現れる様々な現象に関する情報が読み取れない（Kasper 2008）。それらの中には、言い淀み、ターン取りのタイミングなど普段我々が、無意識、もしくは無意識に近い状態で行っているものもあり、また当然のことながら、目、体の動きなどの非言語的情報も得られない。さらに、回答者は時間をかけて何を書くか考えることができ、その内容、そして文法の正確性を何度も推敲することもできる（清水 2009）。

以上のように、DCT で得られたデータは自然さに欠けるという短所があるものの、場面や登場人物の年齢、性別、社会的地位などの属性を自由に設定できるため、同じ条件下での言語使用に関する知識データを複数の回答者から引き出すことができる。また記述式テストは一度に多くの回答者からのデータ収集が可能である。これらの点は他の手法では容易に得られない利点である。

以上の DCT の短所、長所を踏まえ、入念に DCT を作成すれば、回答者の言語語

用論的、また社会語用論的な知識（内省データ）に関する有益な情報を得られると考える（Kasper and Rose 2002）。

3.2 なぜ DCT か

本研究において DCT を用いた理由は 3 つある。第一に、研究目的を達成するために必要な場面が自然環境下では実現不可能だったことである。今回のテストの指示場面の 1 つに彼女が彼氏に電話で「今日、めっちゃ天気いいネ。」「今日、めっちゃ天気いいヨ。」「今日、めっちゃ天気いいヨネ。」という同じ発話内容に異なる発話末詞が後続しているものがある。現実的に考えて、自然環境下でこのような場面のデータを取ることは不可能であろう。

第二に、研究目的の 1 つに NS が作り出す発話の流れの類型化があるため、できるだけ多くの回答者にテストを受けてもらう必要があったことが挙げられる。前述のように、複数の回答者から同時にデータを得ることができる DCT はこの点において非常に有用性が高かった。

最後に、今回の研究では、NNS がネ、ヨ、ヨネの使用に関して理解している部分、していない部分をあぶりだすこともあった。このような目的はロールプレイで得られる口頭データでも達成は可能かもしれない。しかし、ロールプレイではその場で瞬時の反応を回答者に求めるため、回答者への認知的、また心理的な負担が大きいと予想された。そのため、かれらが持っている知識をうまく引き出せない可能性が高いと判断し、回答者が自分のペースで答えられる記述式テストを用いることにした。

3.3 テスト作成時の留意点

3.3.1 複数の異なる発話機能 (utterance function)

ネ、ヨ、ヨネは、前に現れる発話機能が異なっても、同じような発話の流れが続くのだろうか、それとも異なった流れになるのだろうか。この点を調べるため、前述のように、西郷（2012）で調べた叙述・断定 (assertion) を表す発話の他に、依頼 (request) を表す発話もテストに追加した。質問 (question) を表す発話に関しては、「明日天気いいですかネ」⁽⁷⁾ など、ネにしか現れないと考えられること、またテストが冗長になることを避けるために、今回の DCT には含めなかった。

また同じ発話機能でも発話内容の違いがその後の発話の流れに影響する可能性もあるため、叙述・断定、依頼を表す発話をそれぞれ2つずつテストに含めたことは既に述べた。実際に用いた指示発話は3.3.3で紹介する。

3.3.2 ノダ文

「今日天気いいですね。」「今日天気いいンデスね。」などのようにノダ文かどうかで現れる場面が異なる場合も多い。例えば、前者の例文とは異なり、後者は話題に挙がっている場所の天気を話し手が直接的に知る立場にない場合に現れてもおかしくはないだろう。つまり、ノダ文かどうかでその後の発話連鎖にも何らかの影響が出るのが予想される。そのため、本テストではノダ文の影響を排除し、非ノダ文にネ、ヨ、ヨネが付加された発話を調査対象とした。

3.3.3 自然な場面設定

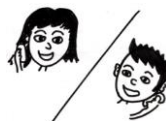
本研究で用いる談話完成テスト作成で最も注意が必要な点は、同じ発話内容にネ、ヨ、ヨネのどれが付加されても不自然ではない場面を設定することである。会話の登場人物の性格や、会話までに築いた人間関係などの詳細を設定することは非現実的である。そのため、ある程度は回答者の想像に委ねることになるのは致し方ない。しかし、NS が作る発話連鎖の類型化も本研究の目的のひとつであるため、それぞれの回答者が想像する場面の差をできるだけ小さくする必要がある。そのため、場面設定には慎重を期し、以下の4場面を設定した（回答者に場면을想像してもらいやすくする目的で、イラストを添えた）。

場面1. 彼女（まき）が彼氏（たけし）に電話をしている。

彼女： おはよう、たけし。

彼氏： あ、おはよう。

彼女： 今日、めっちゃ暑い【ネ、ヨ、ヨネ】。



場面2. 彼女（まき）と彼氏（たけし）が空港ロビーで自分たちのフライトを待っている。

彼女： あ、そろそろ時間だ【ネ、ヨ、ヨネ】。

場面3. 大学キャンパスでまき（女）がサークル仲間のゆか（女）を見かける。

まき： あ、ゆか！

ゆか： あ、おはよ。

まき： あっ、来週の飲み会、来て【ネ、ヨ、ヨネ】。



場面 4. お父さんと子供（女・まみ）の会話。

お父さん： あ、まみの誕生日、来週だっけ？

子供： えっ、そうだよ。忘れないで【ネ、ヨ、ヨネ】。



3.3.4 ネ、ヨ、ヨネの音調

ネ、ヨ、ヨネの意味機能を探る場合、その音調を無視することはできない（大島 2013, Iwata and Kobayashi 2013）。特に発話連鎖を扱う本研究では、発話末詞の音調と次に誰が話すのか（本人か聞き手か）という点の関連性が考えられる。そのため、指定発話末に現れるネ、ヨ、ヨネがどんな音調で話されるか想像し、記入するように指示した（4 頁後の図 2 [右上説明] 参照）。しかし、以下に述べる 2 つの理由で得られた回答は参考程度に留めたほうがよいと考える。

言語（特に音声）を研究していない回答者が、問われた発話末詞の音調が上昇調なのか、平調なのか、下降調なのか、を適切に区別するのは簡単なことではない。そのため、上昇調と比べ、判別がしにくいであろう平調と下降調の区別はつけなくてもよいこととした（つまり、上昇調か平調/下降調かを選ぶ）。さらに、テスト時に普段話しているような声量で指示発話を声に出すことはためられるだろうし、声に出したとしてもささやく程度になり、このことが適切に判断をする妨げになる可能性もある。

3.3.5 指示発話+ネ、ヨ、ヨネの提示の順序

3.3.3 で見たように、テストで提示された場面での指示発話は 4 種類である（「今日、めっちゃ暑い」「あっ、そろそろ時間だ」「あっ、来週の飲み会、来て」「忘れないで」）。これらにネ、ヨ、ヨネが付加されるので、回答者には 12 の話の流れを考えてもらうことになる（発話の種類[4]×発話末詞[3]=12）。

提示順序だが、同じ指示発話を連続して 3 つ提示する（例、「今日、めっちゃ暑いネ。」→「今日、めっちゃ暑いヨ。」→「今日、めっちゃ暑いヨネ。」）と、発話末詞の違いを過度に意識してしまう可能性がより高いと考え、以下のようにランダムに提示した。

場面 1+ネ：「今日、めっちゃ暑いネ。」
→ 場面 3+ヨ：「あつ、来週の飲み会、来てヨ。」
→ 場面 4+ヨネ：「忘れないでヨネ。」
→ 場面 2+ネ：「あつ、そろそろ時間だネ。」
→ 場面 1+ヨネ：「今日、めっちゃ暑いヨネ。」
→ 場面 4+ヨ：「忘れないでヨ。」
→ 場面 3+ヨネ：「あつ、来週の飲み会、来てヨネ。」
→ 場面 2+ヨ：「あつ、そろそろ時間だヨ。」
→ 場面 4+ネ：「忘れないでネ。」
→ 場面 2+ヨネ：「あつ、そろそろ時間だヨネ。」
→ 場面 3+ネ：「あつ、来週の飲み会、来てネ。」
→ 場面 1+ヨ：「今日、めっちゃ暑いヨ。」

図 1. 指示発話の提示の順番

4. DCT 実施

4.1 回答者

テストに協力してくれた人は、NS51 名、NNS50 名である。NS は、すべて筆者の勤務校（以下、関西外大）の学部生で、性別、年齢、出身県は以下のとおりである〔（ ）内の単位は人〕。

性別： 女（43）、男（8）

年齢： 18 歳（2）、19 歳（24）、20 歳（18）、21 歳（4）、22 歳（3）

出身県： 大阪（16）、兵庫（8）、奈良（4）、京都（3）、香川（3）、滋賀（2）、
石川（2）、和歌山（2）、岡山（1）、鹿児島（1）、神奈川（1）、熊本（1）、
高知（1）、佐賀（1）、富山（1）、新潟（1）、広島（1）、山口（1）、山梨（1）

NNS はすべて関西外大の留学生である。その内 78 パーセント（50 人中 39 人）が短期交換留学生で、その他の留学生は、学部留学生（すべて韓国^⑧出身）、大学院留学生（すべて中国出身）である。表 1 は短期交換留学生を日本語レベル別に、その後、学部留学生、大学院留学生と並べたものである。

表 1. 回答者 (NNS) の詳細

回答者番号	日本語レベル	母語	性別	年齢	出身国	滞日期間 ⁽⁹⁾	滞日期間に関する特記事項
NNS1	中級前	英語	F	21	アメリカ	0.2	
NNS2	中級前	英語	M	20	アメリカ	0.2	
NNS3	中級前	英語	M	20	アメリカ	0.4	
NNS4	中級前	英語	M	40	アメリカ	1	
NNS5	中級前	中国語	F	20	中国	0.4	
NNS6	中級前	中国語	F	22	マレーシア	0.3	
NNS7	中級前	ノルウェー語	F	22	ノルウェー	0.8	
NNS8	中級前	ベトナム語	F	20	アメリカ	0.35	
NNS9	中級前	ポーランド語	F	25	ポーランド	0.2	
NNS10	中級前	ロシア語	F	20	ロシア	0.6	
NNS11	中級前	ロシア語	F	21	ロシア	0.6	
NNS12	中級前	英語	F	20	アメリカ	0.3	
NNS13	中級前	英語	F	20	アメリカ	0.3	
NNS14	中級前	英語	F	20	アメリカ	0.35	
NNS15	中級前	英語	F	20	アメリカ	0.35	
NNS16	中級前	英語	F	20	アメリカ	0.35	
NNS17	中級前	英語	F	21	アメリカ	0.35	
NNS18	中級前	英語	F	25	アメリカ	0.3	
NNS19	中級前	英語	M	20	アメリカ	0.35	
NNS20	中級前	英語	M	21	アメリカ	0.3	
NNS21	中級前	英語	M	22	アメリカ	0.4	
NNS22	中級前	英語	M	34	アメリカ	0.35	
NNS23	中級後	英語	F	20	アメリカ	ほぼ 毎夏	両親日本人。毎夏、祖父母の家に滞在 (1 か月～2.5 か月)。小学校 1、2 年の夏は日本の小学校に通った。
NNS24	中級後	中国語	F	22	シンガポール	0.3	
NNS25	中級後	トルコ語	F	22	トルコ	0.2	
NNS26	中級後	ヘブライ語	M	25	イスラエル	0.4	
NNS27	中級後	英語	F	20	アメリカ	0.3	
NNS28	中級後	英語	F	21	カナダ	0.85	
NNS29	中級後	英語	M	19	カナダ	0.2	
NNS30	中級後	韓国語	F	20	韓国	0.3	
NNS31	上級前	英語	F	20	オーストラリア	0.2	
NNS32	上級前	中国語	F	20	中国	0.25	
NNS33	上級前	中国語	F	23	中国	0.3	
NNS34	上級前	フィンランド語	F	22	フィンランド	1.3	
NNS35	上級前	英語	F	20	アメリカ	0.2	
NNS36	上級前	英語	F	20	アメリカ	0.3	
NNS37	上級前	韓国語	F	21	韓国	0.1	
NNS38	上級後	中国語	F	20	中国	0.3	
NNS39	上級後	英語	F	27	アメリカ	0.7	
NNS40	学部生	韓国語	F	21	韓国	7	日本の中・高卒業
NNS41	学部生	韓国語	M	18	韓国	3.6	日本の高校卒業
NNS42	学部生	韓国語	M	19	韓国	4	日本の高校卒業
NNS43	学部生	韓国語	M	27	韓国	3	
NNS44	院生	中国語	F	23	中国	2	
NNS45	院生	中国語	F	23	中国	3	
NNS46	院生	中国語	F	23	中国	3	
NNS47	院生	中国語	F	24	中国	1	
NNS48	院生	中国語	F	24	中国	1.9	
NNS49	院生	中国語	F	36	中国	2	
NNS50	院生	中国語	M	23	中国	2	

4.2 日本語レベルに関して

今回、テストに回答してくれた短期交換留学生はみな留学生別科（以下、留別）で日本語コースを履修している。留別の日本語のレベルは 8 つに分けられており、どのレベルのコースに入るのかは、筆記、オンラインのプレースメントテスト（さらには上級レベルにはインタビュー）をコース開始前に実施し、その結果を基に決定している。表 2 は各レベルに入る学習者の日本語能力の概略である。

表 2. 関西外大の日本語中級・上級コースのレベル

中級前 (レベル 5)	基本的に、総合日本語初級の教科書（例、『げんき』『なかま』など）を終えた学習者が学ぶコース。N2 ⁽¹⁰⁾ の文法表現、語彙を中心に学ぶ。
中級後 (レベル 6)	基本的に、総合日本語初級を終えてから、さらに 1、2 学期日本語コースを履修した学習者（例、『上級へのとびら』（くろしお出版）を半分ほど終えた学習者）が学ぶコース。N2 の文法表現、語彙を中心に学ぶ。
上級前 (レベル 7)	基本的に、N2 合格者と同等の日本語力を持つ学習者が入るレベル。N1 の文法表現・語彙を中心に学ぶ。
上級後 (レベル 8)	基本的に、N1 合格者と同等かそれに近い日本語力を持つ学習者が入るレベル。N1 の文法表現・語彙を中心に学ぶ。

学部留学生は、1 人（テスト時、N1 未取得）を除いて、中学、もしくは高校から日本で教育を受けた人である。大学院留学生は、博士課程前期（6 名）、もしくは博士課程後期（1 人）に在学しており、皆 N1 合格者である。

留別で日本語を学ぶ初級レベルの短期交換留学生にもテストに協力してもらう選択肢もあったが、今回のテストでは日常生活で大きな問題を抱えることなく意思疎通が日本語のできる中級レベル以上の NNS に絞り、初級レベルは次回以降に見送ることにした。

4.3 テスト実施手順

4.3.1 告知～個人情報の記入

学内の掲示板、留学生のメールアドレス、授業前の時間を利用して、テスト実施の告知をし、2015 年 7 月から 2016 年 11 月にかけてテストを実施した。実施日時は筆者が指定した複数のセッションのひとつに参加してもらった。また都合が悪い学生には個別に対応した。

テスト開始前に、テスト概要が記載された、テスト協力への同意書を読んでもらい、参加を希望する人に署名をしてもらった。その後、回答者に個人情報を書いて

もらった（表3参照）⁽¹¹⁾。

表3. テスト前に記入してもらった個人情報の項目

NS	①氏名 ②性別 ③年齢 ④出身地 ⑤留学以外で外国に住んだ経験（国・期間） ⁽¹²⁾ 、⑥Eメール
NNS（短期交換留学生用） ⁽¹³⁾	①氏名 ②関西外大で学んでいる日本語コースのレベル ③性別 ③年齢 ④国籍 ⑤母語 ⑥Eメール ⑦今までの日本滞在期間
NNS（学部・大学院留学生用）	①氏名 ②性別 ③年齢 ④国籍（母語） ⑥日本語学習歴（JLPTなども） ⑦今までの日本滞在期間 ⑧Eメール


個人情報の記入後、すぐさまテストを始めてもらった。

4.3.2 テスト開始の部分

図2は、回答者がまず初めに目にする部分（テスト初頁の上半分）である。

同じ場面が何回か出てきますが
気にしないでください！

場面. 彼女（まき）が彼氏（たけし）に電話をしている。



あなたが考える終助詞のイントネーションが
上昇調の時は↑、下降調または平調の時は
↓/→に○をつけてください。直感でOKです！
例) (↓/→ or ↑)

彼女: おはよう、たけし。
 彼氏: あ、おはよう。
 彼女: 今日、めっちゃ暑いね {↓/→ or ↑}。

(): _____
 (): _____
 (): _____
 (): _____

「話し手」を記入してください。
話し手が続いてもOKです。
例) (彼氏)

あまり考え込まずに、**リアルな会話の続き**を書いてください。
「うん」「えっ」「あ〜」などの細かい言葉も省略しないでください。最後の行まで書いてください。話を完結させる必要はありません。方言（関西弁など）も使用可です。とにかく臨場感あふれる会話です（笑）！

図2. テストシートの冒頭（母語話者、学部・大学院留学生用日本語版）

この場面では、彼女（まき）が彼氏（たけし）に電話をしている。提示されたやりとりの最後の発話は「今日、めっちゃ暑い」という叙述・断定文であり、最後にネ

が付加されている。想像力を働かせながら、この続きを回答者に考えてもらうことが本テストの内容である。

テスト問題の初頁であるこの部分で、テストの進め方の説明（同図内の点線で表した四角内）も併記した。その内容の概略は次のとおりである。

- ✓ () の中に話した登場人物を記入すること（同図左下の説明）。また、話し手は交互ではなく、連続してもよい（例. 彼女→彼女→彼氏→彼女）。
- ✓ 発話内容に関して、フィラーなど用いながら自然だと思えるやり取り（リアルな会話）で4行分埋めること。ただし、話を完結させる必要なし（同図右下の説明）。

なお、学部留学生、大学院留学生には、NS と同じ日本語版を用い、英語が堪能であることが入学条件の1つである短期交換留学生には英語版を用いた（次頁の図3参照）。

テストの行い方に関して、テスト中に留学生から質問が出た場合はその都度説明をした。時間の制限は特に設けなかったため、25分ほどで終わった回答者もいれば、60分ほどかかった回答者もいた。NSのほうがNNSよりも早く終わる傾向はあったが、NSでも60分近くかかる者もいた。

Situation. A girlfriend(Maki) is talking to her boyfriend (Takeshi) on the phone.

You will encounter the same situation a few times in this task, but don't worry about it.

GF: あ、もしもし、おはよう、たけし。

BF: あ、おはよう。

GF: 今日、めっちゃ(=とても)暑いね { ↓ / → or ↑ }。 *It's very hot today* ね。

Circle the intonation you imagined in your mind (i.e. the rising intonation or flat/falling intonation).
e.g. (↓ / → or ↑)

Please continue the exchange as naturally as possible, including fillers, and so on. Although you don't have to make the exchange end in the four lines, please fill out up to the last line.

(): _____

(): _____

(): _____

(): _____

Write down the speaker (i.e. GF or BF, in this case). The same speaker can be continued.
e.g. (GF) ~~~~~
(GF) ~~~~~

図 3. テストシートの冒頭 (短期交換留学生用英語版)

5. DCT を終えて

5.1 データの電子化

紙ベースのテスト結果は、マイクロソフト社の表計算ソフト Excel (バージョン 2016) を用いて筆者 (テスト実施者) 自身が回答内容を電子化した。その際、文法表現の間違い、誤記、中国語の漢字 [簡体字・繁体字]、句読点、改行位置などは紙ベースの回答をそのまま再現した。その他、必要に応じて、「(コメント) by 研究者」のように赤字でコメントを付けた。

また、他の NS1 人 (大学教員) にも、テスト結果 (実際のテスト用紙) を見ってもらった。そして、提示場面と全く関連が見いだせない発話のやり取りだと判断した回答が、筆者の判断と一致した場合はその回答部分を黒色で塗りつぶしている (NNS の回答に 4 例⁽¹⁴⁾)。その結果、1208 例⁽¹⁵⁾の有効回答が集まった。なお、[彼女が彼氏に電話をしている] という指示場面で、電話ではなく面と向かって話している場面だと想像して書かれたものがあつた (NS: 1 箇所)。また、[彼女と彼氏が空港ロビーで自分たちのフライトを待っている] という指示場面で 2 人の別れの場

面だと想像して書かれたと思われるものが6例（NS: 2例、NNS: 4例）あった。これらは提示場面の誤解であるが、指定発話との流れは自然だと考えられるので、塗りつぶしはせず、赤枠で囲い、有効回答に含めている。なお、2例で倫理的に不適切な語を用いた回答があったので、その箇所を「(倫理的に不適切な語)」という文言と差し替えた。

5.2 テスト結果（公開版）の紹介

テスト結果は希望者に配布できるように、ひとつの Excel ファイルに、13のシートを用いてまとめた。各シートのタイトル（内容）は表4の通りである。

表4. 各シートのタイトル（内容）

シート1	表紙
シート2	データの見方について
シート3	テスト結果1：叙述・断定文「今日、めっちゃ暑い」＋ネ、ヨ、ヨネの後にNSが作った発話連鎖
シート4	テスト結果2：叙述・断定文「あ、そろそろ時間だ」＋ネ、ヨ、ヨネの後にNSが作った発話連鎖
シート5	テスト結果3：依頼文「あっ、来週の飲み会、来て」＋ネ、ヨ、ヨネの後にNSが作った発話連鎖
シート6	テスト結果4：依頼文「忘れないで」＋ネ、ヨ、ヨネの後にNSが作った発話連鎖
シート7	テスト結果5：叙述・断定文「今日、めっちゃ暑い」＋ネ、ヨ、ヨネの後にNNSが作った発話連鎖
シート8	テスト結果6：叙述・断定文「あ、そろそろ時間だ」＋ネ、ヨ、ヨネの後にNNSが作った発話連鎖
シート9	テスト結果7：依頼文「あっ、来週の飲み会、来て」＋ネ、ヨ、ヨネの後にNNSが作った発話連鎖
シート10	テスト結果8：依頼文「忘れないで」＋ネ、ヨ、ヨネの後にNNSが作った発話連鎖
シート11	資料1. NSに実施したテストシート
シート12	資料2. NNS（短期交換留学生）に実施したテストシート
シート13	資料3. NNS（大学・大学院留学生）に実施したテストシート

図 4 は表紙のスクリーンショットである。

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	目次(ご覧になりたい項目をクリックしてください)
20	データの見方について
21	テスト結果1. 叙述・断定文1「今日、めっちゃ暑い」+ネ/ヨ/ヨネの後にNSが作った発話連鎖
22	テスト結果2. 叙述・断定文2「あ、そろそろ時間だ」+ネ/ヨ/ヨネの後にNSが作った発話連鎖
23	テスト結果3. 依頼文1「あっ、来週の飲み会、来て」+ネ/ヨ/ヨネの後にNSが作った発話連鎖
24	テスト結果4. 依頼文2「忘れないで」+ネ/ヨ/ヨネの後にNSが作った発話連鎖
25	テスト結果5. 叙述・断定文1「今日、めっちゃ暑い」+ネ/ヨ/ヨネの後にNNSが作った発話連鎖
26	テスト結果6. 叙述・断定文2「あ、そろそろ時間だ」+ネ/ヨ/ヨネの後にNNSが作った発話連鎖
27	テスト結果7. 依頼文1「あっ、来週の飲み会、来て」+ネ/ヨ/ヨネの後にNNSが作った発話連鎖
28	テスト結果8. 依頼文2「忘れないで」+ネ/ヨ/ヨネの後にNNSが作った発話連鎖
29	資料1. NSに実施したテストシート
30	資料2. NNS(短期交換留学生)に実施したテストシート
31	資料3. NNS(大学・大学院留学生)に実施したテストシート
32	

図 4. 公開版ファイルの表紙

目次内の見たい項目(内容)をクリックすると、そのシートにジャンプするように設定した。表紙の次シートではデータの見方、また使用した用語についての説明を行った。なお、資料1から資料3は実際に使用したテスト問題をPDFファイルで埋め込んであり、それぞれのサムネイルをクリックするとファイルを開くことができるようになっている。

テスト結果のまとめ方の構成がイメージしやすいように、テスト結果の一部のスクリーンショットを紹介する(図5、図6参照)。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	表紙へ						場面:	彼女(まぎ)が彼氏(たけし)に電話をしている。	
2									
3							彼女:	おはよう、たけし。	
4							彼氏:	あ、おはよう。	
5							彼女:	今日、めっちゃ暑いね	ネ音調
6	行番号	協力者番号	性別	年齢	出身県				
7	1	NS1	F	19	大阪		彼氏:	うん、暑いよなー。	↓
8	2	NS1	F	19	大阪			今日なんか予定あるん？	
9	3	NS1	F	19	大阪		彼女:	今日は、〇〇ちゃんと映画見に行くな！	
10	4	NS1	F	19	大阪		彼氏:	えー、いいなあ！！楽しんでな！	
11	5	NS1	F	19	大阪				
12	6	NS2	F	20	奈良		彼氏:	来週の日曜どっか行こうよ	↓
13	7	NS2	F	20	奈良		彼女:	土曜やったら空いてるでー	
14	8	NS2	F	20	奈良		彼氏:	じゃあ土曜海遊館行こうや	
15	9	NS2	F	20	奈良		彼女:	ええでー	
16	10	NS2	F	20	奈良				
17	11	NS3	F	20	大阪		彼氏:	そうだね。	→↓
18	12	NS3	F	20	大阪		彼女:	今何してるん？	
19	13	NS3	F	20	大阪		彼氏:	これからごはん食べようと思ってて。	
20	14	NS3	F	20	大阪		彼女:	そっか。	
21	15	NS3	F	20	大阪				
22	16	NS4	F	19	京都		彼氏:	どっか行こうと思ってたけどやめる？	→↓
23	17	NS4	F	19	京都		彼女:	えー、家についてつまんないよ。プールとかどう？	
24	18	NS4	F	19	京都		彼氏:	俺、水着持ってないからなー。	
25	19	NS4	F	19	京都		彼女:	じゃあ、夏のために水着買いい行こうよ。私も欲しいしよ！	
26	20	NS4	F	19	京都				
27	26	NS5	F	22	和歌山		彼氏:	そうやなあ、夏アクーラー持たないからあ、	→

図 5. NS のテスト結果の提示の仕方 (ファイル左上部分のスクリーンショット)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	表紙へ										場面: 彼女(まぎ)
2											
3											彼女: おはよう、た
4											彼女: あ、おはよ
5											彼女: 今日、めっ
6	行番号	協力者番号	日本語レベル	母語	性別	年齢	出身国	滞日期間	滞日期間に関する特記事項		
7	1	NNS1	中級前	英語	F	21	アメリカ合衆国	0.2			彼女: うんめっちゃ
8	2	NNS1	中級前	英語	F	21	アメリカ合衆国	0.2			彼女: きょう、いい
9	3	NNS1	中級前	英語	F	21	アメリカ合衆国	0.2			彼女: えっ、ちゅま
10	4	NNS1	中級前	英語	F	21	アメリカ合衆国	0.2			彼女: たけしはあ
11	5	NNS1	中級前	英語	F	21	アメリカ合衆国	0.2			
12	6	NNS2	中級前	英語	M	20	アメリカ合衆国	0.2			彼氏: うん、そなた
13	7	NNS2	中級前	英語	M	20	アメリカ合衆国	0.2			彼女: 暑いから、
14	8	NNS2	中級前	英語	M	20	アメリカ合衆国	0.2			彼氏: あっ、プール
15	9	NNS2	中級前	英語	M	20	アメリカ合衆国	0.2			彼女: 12時はい
16	10	NNS2	中級前	英語	M	20	アメリカ合衆国	0.2			
17	11	NNS3	中級前	英語	M	20	アメリカ合衆国	0.4			彼氏: そうね、この
18	12	NNS3	中級前	英語	M	20	アメリカ合衆国	0.4			彼女: そっか？き
19	13	NNS3	中級前	英語	M	20	アメリカ合衆国	0.4			彼氏: えー、きの
20	14	NNS3	中級前	英語	M	20	アメリカ合衆国	0.4			彼女: うそ〜！
21	15	NNS3	中級前	英語	M	20	アメリカ合衆国	0.4			
22	16	NNS4	中級前	英語	M	40	アメリカ合衆国	1			彼氏: そですな
23	17	NNS4	中級前	英語	M	40	アメリカ合衆国	1			彼女: ああさ〜プ
24	18	NNS4	中級前	英語	M	40	アメリカ合衆国	1			彼氏: ああプール
25	19	NNS4	中級前	英語	M	40	アメリカ合衆国	1			彼女: じゃ〜、1時
26	20	NNS4	中級前	英語	M	40	アメリカ合衆国	1			
27	21	NNS5	中級前	中国語	F	20	中華人民共和国	0.4			彼氏: そうだね！
28	22	NNS5	中級前	中国語	F	20	中華人民共和国	0.4			彼女: 海へ行きた
29	23	NNS5	中級前	中国語	F	20	中華人民共和国	0.4			彼氏: 私も。
30	24	NNS5	中級前	中国語	F	20	中華人民共和国	0.4			彼女: じゃ、今から
31	25	NNS5	中級前	中国語	F	20	中華人民共和国	0.4			
32	26	NNS6	中級前	中国語	F	22	マレーシア	0.3			彼氏: うん、あつし
33	27	NNS6	中級前	中国語	F	22	マレーシア	0.3			彼女: あっ、じつは
34	28	NNS6	中級前	中国語	F	22	マレーシア	0.3			彼氏: えとー、今
35	29	NNS6	中級前	中国語	F	22	マレーシア	0.3			彼女: へー、たけ

図 6. NNS のテスト結果の提示の仕方 (ファイル左上部分のスクリーンショット)

各シートの左から複数列を使って回答者の属性をまとめた。回答内容は、発話末別ではなく、場面別でまとめている。例えば、図 5 で切れている右側の部分は同じ場面でのヨ発話、ヨネ発話が用いられた場合の回答がまとめている（図 7 参照）。

I	J	K	L	M	N	O	P	Q
		場面: 彼女(まさ)が彼氏(たけし)に電話している。				場面: 彼女(まさ)が彼氏(たけし)に電話している。		
		彼女: おはよう、たけし。				彼女: おはよう、たけし。		
		彼氏: あ、おはよう。				彼氏: あ、おはよう。		
	ヨ音読	彼女: 今日、めっちゃ暑いよ		ヨ音読		彼女: 今日、めっちゃ暑いよ		ヨネ音読
↓		彼氏: うそやーん。俺今、クーラーがんがんやから 外の暑さとかあんねん。まさ今どこなん？		→		彼氏: ほんまそれ。今日暑すぎ！せめめっちゃいれてるし 私、今日暑くて死なしたもん。		→
		彼女: 今、京都来てとてきー。せれから○○ちゃんと 京都観光するねん！おみやげ買ってくるわな！！				彼氏: 俺も俺もクーラーこわれてるから暑いで暑い。 うわー。それはだるい。		
↓		彼女: 暑すぎて死ぬそやわ 彼氏: あんたいつも大げさやねん！笑 彼氏: いや、まじで暑すぎでもうムリ 彼女: プールとか行きたいわー！		↑		彼女: 昨日のM-1見た？？ 彼氏: さんまが優勝しとったが 彼女: やっぱ関西の人はおもしろいわー 彼氏: ほんま今度新宿観見に行こや		→
→↓		彼氏: ほんまに！溜めるか思ったわ。 彼女: 外でぶれへんわ。 彼氏: 今日休みやっけ？ 彼女: うん、そう。		→↓		彼氏: 暑いよなー。 彼女: もうクーラーつけてるん？ 彼氏: いやまだがんばってる。 彼女: まじで？！		→↓
→↓		彼氏: まじで？俺、今日サッカーの練習あんのにー。 彼女: 熱中症、気をつけなよー。 彼氏: 飲みもん、いっぱい持って行く。ありがとっな！ 彼女: はいーい。がんばってね。		→↓		彼氏: こんな日に学校行くとかまじだるいなあ。 彼女: ほんまとそれー。日に焼けたくないし行きたくないーい。 彼氏: サボっちゃおうぜ。 彼女: ためだよ！私、宿勉強わらってるもん。		→↓
→		彼氏: え、そうなん？ 彼女: え、もしかしていま起きたとか？ 彼氏: うん、めっちゃ寝たわー。 彼女: いや、寝すぎやる！		↑		彼氏: うん、この暑さはやばいぜ。 彼女: 私なんか暑すぎてアイスさつも食べてしまったわ。 彼氏: それは食べすぎちゃう？ 彼女: 暑すぎて我慢できんかったん！		→
↑		彼氏: うそやん。今日お寺のベリするっていったよな。 彼女: いや、もう暑すぎ？ 彼女: だいたい暑いで、お寺めぐりかして今日は涼しいとこ行かへん？ 彼氏: そーするなじゃあ映画でも見に行く？		→↓		彼氏: ほんまに暑すぎ。さっきからアイスばかり 食べてるわー。 彼女: えーい。いあー。でも明日もっと暑いらしいで。 彼氏: うん。仕事終わったらそっちにでもかえりていから。 彼女: OKじゃあまたね。		→↓
→↓		彼氏: でも、満行くなら最高の天気じゃん。 彼女: え、でもやけちゃうよ。 彼氏: 日やけどめ、ぬれば大丈夫だって。準備できたらかえりていよ。 彼女: わかった。じゃあ、9時に七かえりにきてね。		→↓		彼氏: ほんまと。もう何もやる気でない。 彼女: 私も。今日もお互い仕事がんばろうね。 彼氏: うん。仕事終わったらそっちにでもかえりていから。 彼女: OKじゃあまたね。		→↓

図 7. NS のテスト結果の提示の仕方（ファイル右上部分のスクリーンショット）

また音調に関する結果の列も発話のやり取りの結果の右列に設けた。

5.3 今後の課題

5.3.1 改行の仕方に関して

4.3.2 で述べたように、テスト用紙初頁の説明文で、話し手は交互ではなく、連続してもよいと併せて記した（例、彼女→彼女→彼氏→彼女）。しかし、改行の仕方（どんな条件で改行をするか）に関しては特に説明を行わず、回答者の判断に任せた。

テスト結果を見ると、有効回答例中の改行回数の 94.7 パーセントが話者交代でなされていた⁽¹⁶⁾（図 8 参照）。つまり、話者交代がほとんどの改行の条件になっていると言える。

場面. 彼女(まき)と彼氏(たけし)が空港ロビーで自分たちのフライトを待っている。

彼女: あ、そろそろ時間だよね (↓/→ or ↑)。

(彼氏): ああ、どうだね。帰りたいくないなー。

(彼女): うん。本当に。私、ここには坐したい。

(彼氏): じゃあ、新婚旅行行てまたこようよ。

(彼女): え、ええ、プロポーズ?

図 8. 話者交代で改行が行われている例

5.3.1.1 同一話者の発話ターン内での改行

また同一話者の発話ターン内で改行しているものが 190 箇所見られた。それらの改行の仕方は 4 パターンに分類できた。以下、それぞれのパターンの具体例を紹介する。

① 1つの発話が終了→改行→新しい発話開始

図 9 の 1~2 行では、彼氏の発話「そうやけど。」の後、改行が行われ、彼氏の次の発話「ちゃんとチケットで確認した？」が続いている。

場面. 彼女(まき)と彼氏(たけし)が空港ロビーで自分たちのフライトを待っている。

彼女: あ、そろそろ時間だよね (↓/→ or ↑)。

(彼氏): そうやけど。

(彼氏): ちゃんとチケットで確認した?

(彼女): うん。ほう 11時半からだから、もうすぐぞぞ!

(彼氏): そしたら、早く準備して向かおうか?

図 9. 同一話者のターン内で改行が行われている例 1

同じ条件で改行しているものは、122 箇所 (NS: 60 箇所 NNS: 62 箇所) あった。

② 複数の発話が終了→**改行**→新しい発話開始


図 10 の 2~3 行では、まきの発話が 2 つ続き（「そうやで。サークルで飲み会するんやで」）、その後、改行が行われ、次のまきの発話「楽しいしさ、来てや」が続いている。

場面. 大学キャンパスでまき（女）がサークル仲間のゆか（女）を見かける。

まき: あ、ゆか！

ゆか: あ、おはよ。

まき: あっ、来週の飲み会、来てよね {↓/→ or ①}。



(ゆか): え、飲み会あるんやっけ？

(まき): そうやで。サークルで飲み会するんやで”

(まき): 楽しいしさ、来てや

(ゆか): うん 分かった 考えとくね。

図 10. 同一話者のターン内で改行が行われている例 2

同じ条件で改行しているものは、38 箇所（NS: 23 箇所 NNS: 15 箇所）あった。

③ 1 つの発話の途中→**改行**→発話の残り

図 11 の 2~3 行では、彼女の発話「え、でも 30 分前からおこしくさって [改行] 言ってなかった？」が 2 行にまたがって書かれている。

場面. 彼女（まき）と彼氏（たけし）が空港ロビーで自分たちのフライトを待っている。

彼女: あ、そろそろ時間だよね {↓/→ or ↑}。

(彼氏): え、まだやろ？ 0時半、て書いてなかった？

(彼女): え、でも 30分前から おこしくさって

(): 言ってなかった？

(彼氏): そうやっけ？ ちよと見てみるわ。

図 11. 同一話者のターン内で改行が行われている例 3

同じ条件で改行しているものは、9箇所（NS: 4箇所 NNS: 5箇所）あった。

④ 1つ（または複数）の発話が終了。次の発話の途中→**改行**→発話の残り

図12では、お父さんの発話「忘れてないよー。確認確認。なんか[改行]友達呼んでパーティーするんやろ？」と2行にまたがって書かれている。


場面. お父さんと子供(女・まみ)の会話。		
お父さん:	あ、まみの誕生日、来週だけ？	
子供:	えっ、そうだよ。忘れないでね {41→ or ↑}。	
(お父さん):	忘れてないよー。確認確認。なんか	
():	友達呼んでパーティーするんやろ？	
(子供):	そうやで！仲良い子呼んでするねん。	
(お父さん):	何人くらいくるんや？	

図12. 改行の仕方(例5)

同じ条件で改行しているものは、21箇所（NS: 4箇所 NNS: 17箇所）あった。

ここで注意が必要なのは、これらの4パターンの改行の仕方は、回答者が各々改行の条件ルールを作りそれに則って回答をしているわけではないことである。つまり、1人の回答者が様々な改行の仕方をしていることが回答を見るとわかる。これはどういうことか。回答時に自然だと考えた発話の長さ、回答者が書く文字の大きさの癖など様々な要因で下線部に書ける文字数が決まり、余ったスペースから次の発話を書き始めるか、または改行をして次の行から書き始めるか、をその場の判断で決めたと考えられる。

以上のような改行の仕方の違いは、あくまでも回答者が考える自然なやり取りを紙面に書く際の違いであり、回答者が考えるやり取りの自然さには影響はないと考える。しかし、回答者に与えられた行数は4行であるため、その中で行われる話者交代の回数に影響を与えるのは明かである。具体的には、図9のように発話の終了で改行を行うと、4行で行われる話者交代の回数は必然的に少なくなるであろう。話者交代の回数は話の進み具合に影響を及ぼす可能性が高く、(特に発話連鎖を考

察する本研究では) どのような改行の仕方がよりよいのかを考える必要がある。今後の課題である。

5.3.2 最終行まで書いていない回答に関して

先述(4.3.2)のように、話のやり取りは完結する必要はないが、最終行の4行目まで書くようにテスト用紙には指示してあった。発話連鎖を扱う本研究では、どのように発話のやり取りを作っていくのか調査する必要があったためである。ではなぜ4行なのか。発話末詞が付加された指示発話に回答者がなんかの目的を持たせる場合、少なくとも4行でその目的(の一端)が現れるのではないかと考えたからである。テスト作成時にもっと行数を多くしたほうがいいのではないかという考えもあったが、テストが冗長になると、回答者の集中力も落ち、得られたデータの信頼性にも影響するだろう。また行数が多くなればなるほど(=指示発話から離れれば離れるほど)、発話末詞の効力が薄まると考えたため、本テストでは4行にすることに決めた。

しかし、テスト結果を見ると、最終行まで書かれていないものも見られた。1行目で終わっているものは、NNSデータに1例見られた(図13参照)。

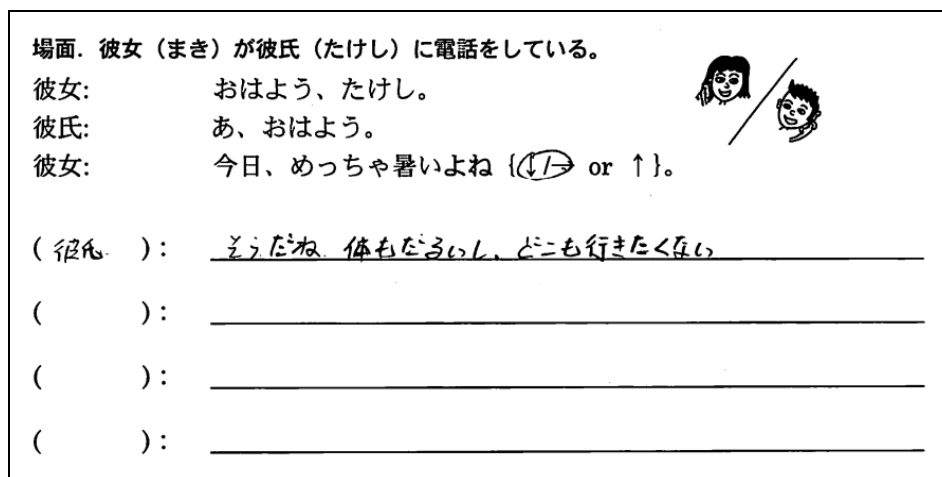


図13. 回答が1行目で終わっている例

2行目で終わっているものは、13例(NSデータに5例、NNSデータに8例)見られた(次頁の図14参照)。さらに、3行目で終わっているものが、23例(NSデー

タに 16 例、NNS データに 9 例) 見られた (図 15 参照)。

回答者が最終行まで書かなかったという事実をどのように捉えればよいのだろうか。できるだけ早くテストを終わりたいという回答者の心理的要因が影響をしているという考え方もできるであろう。また、最終行まで埋めるべくもなく、提示場面でのやり取りが終わったという考え方もできる。他にも理由はあるかもしれないが、どれも想像の域を出ない。しかし、重要なのは回答の内容が 2 人の NS が読んで自然だと感じられたことである。

場面. 彼女(まき)と彼氏(たけし)が空港ロビーで自分たちのフライトを待っている。	
彼女:	あ、そろそろ時間だね ↓/→ or ↑。
(彼氏):	そうだね。そろそろ移動しようか。
(彼女):	うん。
():	
():	

図 14. 回答が 2 行目で終わっている例

場面. 彼女(まき)と彼氏(たけし)が空港ロビーで自分たちのフライトを待っている。	
彼女:	あ、そろそろ時間だね ↓/→ or ↑。
(彼氏):	あ、もうそんな時間か トイレとかない?
(彼女):	うん 大丈夫。パスポート持った?
(彼氏):	持った持った。
():	

図 15. 回答が 3 行目で終わっている例

以上、今後同じような形式の DCT を行う際、改行の仕方、また回答すべき行数に関しても注意が必要であることが課題として残った。現時点で、これらの点に対

して、筆者自身どのように対処すべきか明確な考え方を持つには至っていない。

5.3.3 音調に関して

3.3.4 で述べたように、本テストで得られた発話末詞の音調データの信頼性に関して、頭の中で考えた発話末詞の音調を回答者が正しく認識できるのかどうか疑問が残る。分析に耐えうる信頼性を得るためには、回答者から実際の音声データを取り、その音調をテスト実施者が音調分析ソフト等を用いて分析することが好ましいのは言うまでもない。発話連鎖と発話末詞の音調の関連性も今後の課題である。

追記. 本テスト結果の公開

本テストの結果（エクセルファイル：ファイル名「発話末詞『ね』『よ』『よね』がその後の発話連鎖に与える影響に関する考察（テスト結果）」）を公開します。研究資料として利用していただければ幸いです。入手方法は、

hatsuwamatsushi@gmail.com

に以下の情報を書いてお送りください。

- ①氏名
- ②E メールアドレス
- ③所属（大学名・所属学部など）
- ④役職（准教授、D1、M1 など）
- ⑤専門分野
- ⑥使用目的

注

- (1) 本テストは、JSPS 科研費 15K02496 の助成を受けた研究課題「発話末詞『ね』『よ』『よね』がその後の発話末詞に与える影響に関する考察」（研究代表者：西郷英樹）の一部として実施した。
- (2) 会話に特徴的に現れるその性格から、本報告では「ね」「よ」「よね」を「終助詞」ではなく「発話末詞」と呼ぶ。ただし、インターネットなどで検索されやすいように一般的な呼び方である「終助詞」をタイトルに使用した。
- (3) 日本語教育を視野に入れていない研究にその応用を求めることは、言うまでもなく、妥

当ではない。

- (4) 日本国内で長年英語教育に従事し日本語 NNS でもある Kate Elwood 氏は Daily Yomiuri Online [2013/1/20 付記事]でヨが発話連鎖効力を持つという Saigo (2011)の主張に賛同を、またドイツで日本語教育に従事し日本語実用文法に関する著書もある Martina Ebi 氏は Pragmatics. Review 2013.1.1 で同書の成果を日本語教育へ応用することへの期待を述べている。このような反応を見る限り、発話連鎖という概念を用いて、学習者の勘どころを押さえた文法説明を模索している筆者の取り組みはそれほど間違っていないのではないかと考える。
- (5) ヨネは、「ヨ」発話がネのスコープに入っていると考ええる。
- (6) 発話末環境で発話の展開に関わる言語要素は、もちろんネ、ヨだけではない。しかし、ネ、ヨの使用頻度の高さから日本語の発話末環境で重要な役割を担っていると考える。
- (7) 「だれが行くかヨ。」「それでもお前は教師かヨ！」などは、いわゆる反語であり、文の形は疑問文であるが、その機能 (utterance function) は断定である。
- (8) 本報告では、国名は全て通称を用いることとする (例. アメリカ合衆国→アメリカ)。
- (9) 0.1 は 1 ヶ月、1.0 は 1 年を示す (幸い、10、11 ヶ月という回答がなかったため、この方式を使用)。
- (10) 「N」とは、国際交流基金及び日本国際教育支援協会が主催する日本語能力試験 (JLPT) のレベルを表す。N1~N5 まであり、数が少なくなるほど、レベルが高くなる。詳しくは、同試験のホームページを参照 (<http://www.jlpt.jp/index.html>)。
- (11) 配布するテスト結果には回答者が特定できる個人情報 (氏名、Eメールアドレス) は含まれない。
- (12) 3 年ほど海外に住んだ経験がある NS が 1 人いたが、その回答者はテスト結果から除外した。
- (13) 関西外大の留別で学ぶ交換留学生は日本での就学・進学予定がない学生がほとんどで、そのためか日本語能力試験を受験するものは少ない。
- (14) それぞれの場面 (+指示発話) で書かれた回答を本報告では「1 例」「2 例」...と「例」を用いて数えることとする。
- (15) (NS51 人+NNS50 人) ×4 場面×発話末詞 3 種類-無効回答 4 例
- (16) 4 行まで書いたものが 1169 例、3 行までが 25 例、2 行までが 13 例、1 行までが 1 例あった。改行の回数は 4 行が 3 回、3 行が 2 回、2 行が 1 回、1 行が 0 回となるので、有効回答例中の改行の回数は 3570 回 (1169×3+25×2+13×1) となる。その内、190 回の改行で、同じ登場人物の発話が続いていた。つまり、94.7 パーセントの改行が話者交代で行われていたことがわかる。

参考文献

大島デイヴィッド義和 (2013) 「日本語におけるイントネーション型と終助詞機能の相関について」『国際開発研究フォーラム』第 43 号 pp. 47-63 名古屋大学

- 大曾美恵子 (1986) 「誤用分析 1『今日はいいい天気ですね。』－『はい、そうです。』」
『日本語学』 第 5 卷 9 号 pp. 91-94 明治書院
- 高民定 (2016) 「中間言語としての終助詞の使用－接触場面における談話展開と相互行為から捉え直す－」『日本語学』 第 35 卷 11 号 pp. 58-69 明治書院
- 黄麗華・井上優 (2005) 「対照研究と日本語教育」『日本語教育の開かれた扉』(松岡弘・五味政信編) pp. 122-136 スリーエーネットワーク
- 崔英才 (2016) 「接触場面における終助詞『ね』『よ』『よね』の機能分析－発話連鎖の視点から－」『千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書』 第 307 卷 pp. 19-36 千葉大学大学院人文社会科学研究所
- 西郷英樹 (2012) 「終助詞『ね』『よ』『よね』の発話連鎖効力に関する一考察－談話完成タスク結果を基に－」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』 第 22 号 pp. 97-117 関西外国語大学留学生別科
- 西郷英樹 (2015) 「プロフィシエンシーと『ね』『よ』『プロフィシエンシーを育てる 3 談話とプロフィシエンシー』(鎌田修・嶋田和子・堤良一編) pp. 112-145 凡人社
- 清水崇文 (2009) 『中間言語語用論概論－第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』 スリーエーネットワーク
- 福島和郎・岩崎庸夫・渋谷昌三 (2008) 「終助詞“よ”と“ね”の発話が発話者の印象に及ぼす効果」『目白大学心理学研究』 第 4 号 pp. 75-84 目白大学
- Iwata, K. and Kobayashi, T. (2013) Speaker's intentions conveyed to listeners by sentence-final particles and their intonations in Japanese conversational speech. *The 38th IEEE International Conference on Acoustics, Speech and Signal (ICASSP) Proceedings*. pp. 6895-6899.
- Maynard, S. K. (1993) *Discourse Modality: Subjectivity, Emotion, and Voice in the Japanese Language*, Amsterdam: John Benjamins.
- Kasper, G. (2008) Data collection in pragmatics research. In H. Spencer-Oatey (Ed.), *Culturally Speaking - Culture, Communication and Politeness Theory* [2nd edition] (pp. 279-303), London & New York: Continuum.
- Kasper, G. and Rose, K. R. (2002) *Pragmatic Development in a Second Language*, Oxford: Blackwell.
- Saigo, H. (2011) *The Japanese Sentence-final Particles in Talk-in-Interaction*, Amsterdam : John Benjamins.

参考資料

Ebi, M. (2013) *A Gestalt-based Solution to Problematic Sentence-final Particles in Japanese*, PRAGMATICS.REVIEW, 1(1), <http://www.pragmatics-reviews.org>

Elwood, K. *Yo's Got Something to Tell Ya*, DAILY YOMIURI ONLINE Cultural Conundrums, 2013 年 1 月 20 日付